

松が岡町会とのタウンミーティング

「能美丘陵地宅地開発について」

日 時 令和 5 年 7 月 8 日（土） 1 8 時～ 1 9 時 4 0 分

会 場 能美市役所 大会議室

参加者数 7 7 名

1. 開会

2. 松が岡町会長ご挨拶

・市長の説明の途中で聞き取れない部分や分からないところがありましたら、ご遠慮なく挙手していただければと思います。講演会ではございませんので、市長と市民両者が主体となって対話する場にしていだけたらと思います。

・先日、市長から現地を視察したいというご要望をいただき、松が岡の町民、土木部長、市役所職員の方 2 名をお迎えした。開発予定地周辺を一緒に歩きながら、現地の自然に詳しい町民の説明、また私たちたった一部にすぎませんが市民の声に耳を傾けていただいたことを皆様にご報告いたします。ありがとうございました。

・タウンミーティングは、パブリックコメントや市民満足度調査と同じく市民意向を発する貴重な機会です。能美市における市民協働のまちづくりの推進につながるよう、活発な対話をしていただきたいと思います。

3. 市長施策説明

○はじめに

・今日は能美市が今計画をしている辰口の丘陵地の開発についてということで、これまで比較的市全体の取り組みに関してタウンミーティングをすることが多く、テーマを絞った形での意見交換会は能ん美りカフェトークという形で少人数で行ってきっていた。

・一つのテーマでこれだけ大勢の皆様方とタウンミーティングをさせていただくというのは恐らく初めてではないかと思う。

- ・私からのご説明後にいろいろとご質問やご意見を頂戴できればと思う。

○市の事業・施策と方針について

・ 7 つの事業と施策に取り組んでおり、その全ての目標は「移住・定住の促進につなげる」ということでやっている。どうして移住・定住の促進につなげるかという、自治体の勢いを示す数値はいろいろあると思うが、私は人口が増える、人口を維持しているということがその市政の事業・施策の効果として一番分かりやすいんじゃないかと考え、移住・定住の促進、人口を増やす、人口を維持するという方針でこれまでも取り組んできている。

・ただ、それは我々市役所の職員だけがやっても達成できない。市民の皆さんや、そして市内にいらっしゃる事業所の皆さんの理解と協力がなくては出来ない。そのためには市民力、地域力を育てていく必要があり、ふるさと愛の醸成も大変重要だと思っている。

・ふるさと愛というのは、市民の皆さんが自分の住んでいる地域を好きになること、誇りに思ってもらえることです。例えば、皆さんのご友人が能美市に住んでみたいと思ったときに、皆さんが「能美市いいところぞ」と言ってもらわないと能美市に住んでももらえない。

・皆さんのご子息あるいはご親戚の方が大都会に住んでいらっしゃって U I J ターンをしたいと言ったときに、「ぜひ戻っておいでよ」と言ってもらわないと人口が増えないということで、ふるさと愛の醸成にも一生懸命取り組んでいる。

・人口減少が進むと、まず国の全体の視野から見ると、高齢者お一人に対して 3 人の働く人で支えていたのがこれまでの高度成長期時代の日本でした。ところが、今人口が減り、特に働く人たちの世代の人口がどんどん少なくなっていることから、現在は肩車の状態で高齢者を支えている状況になっている。

・ただ高齢者と申し上げても、日本の今のこの高齢者という設定は 65 歳以上なんですけれども、今 65 歳以上の方はまだ社会の第一線で頑張っている人ばかりですし、市の町会長、町内会長さんも、65 歳以上の人たちが占める割合がとっても高い。これまでは 65 歳以上の人たちにもっと元気になってもらおう、長生きしてもらおうと施策を考えていたが、今は 65 歳以上の人にもっと活躍してもらおう、能美市のために一緒に頑張ってもらおうという施策に切り替えている。

・自治体ベースで言うと、過疎化が進むとコミュニティや互助や共助ができなくなってくる。税収が減り、市民サービスが低下をし道路や橋あるいは老朽化した施設なんかをだんだん直せなくなってくる。空き家が増えたり、犯罪も増えたりするでしょう。災害も増え

るでしょうということで、やはり過疎化は食い止めなくてはいけないと思っている。

・人口が増えるには2つの要素があり、自然増と社会増です。自然増というのは、生まれてくる赤ちゃんがお亡くなりになる方よりも多い。社会増というのは、引っ越してこられる人が引っ越していく人よりも多い。この2つをいろんな施策を進めながら達成しようと今やっている。ただ、残念ながら今ちょっと人口が減ってきている。新型コロナウイルス感染症が拡大する前は少しずつ増えてきていたが、感染が広がることによって生まれてくる赤ちゃんの人数が大きく落ちた。

・能美市は外国人が約1,300人住んでいらっしゃって、県内に19市町ある中で人口当たりの外国人が住んでいる比率が県内ナンバーワンです。その外国人の皆さんがなかなか戻ってこれなくなった。それから、先端大の大学生の留学数が減ったことで、大幅な自然減と社会減になって今人口が減りつつあるが、おかげさまで社会増、社会動態だけが戻ってきている。今後いかにしてこの自然減をカバーをしていくか今ポイントになってきている。

・心配なのは子どもの人数。各小学校の児童数ですが、例えば辰口中学校の児童数はピーク時よりも現在は約200人少なくなっている。やはり赤ちゃん、我々の宝である子どもをどうやって増やしていくかが大変重要なポイントになっている。

・一方で、今能美市は企業誘致が大変好調です。地元の企業さんも増床をしてもらっている。これに伴って、今後、約1,000人の新しい雇用先が生まれ、1,000人の人員を確保する必要がある。ただ、人が減っていることから、この1,000人を確保するために既存の能美市内にある企業から人材が流出していかないようにしなければならない。

・人材を確保するためには住む場所も必要です。現在、能美市は大幅な宅地がなかなか開発していけない。宅地をしっかりと確保していきたいという思いの中で今回の丘陵地の開発ということなんです。

○令和5年度予算方針

- ・5つの新たな方針をつくり取り組んでいる。
- ・1つ目が災害対策。昨年8月4日の大雨を受けてしっかりと取り組んでいかなくちゃならない。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴って低下した市民力、地域力、これをもう一回取り戻したい。
- ・北陸新幹線県内全線開業に伴って多くのお客様にこの能美市に来てもらいたい。あるい

は大都市圏から U I J ターンをしてもらいたいと思っけていても、なかなか大都市圏の中で「能美市」「能美（のみ）」という地名はまだまだ浸透していないことから、この知名度、認知度をどう向上させるか。

- ・一人でも多くの赤ちゃんを能美市で産んでいただく。それから、健康寿命を延ばして多くの人たちにもっともっと長生きして元気に暮らしていつてもらおうと、自然動態の増進に取り組んでいる。

- ・2013年のCO₂の排出量に対して2030年には半分に、2050年にはゼロにしようというカーボンニュートラルにも取り組んでいる。GXの推進ということでいろんなことに今取り組んでいる。これらの取り組みを、最近ではデジタル技術をどんどん導入してやっていく、というのが今の能美市の取り組みです。

○丘陵地開発について

- ・今回能美市が取り組んでいる丘陵地は我々にとって大変大事な場所であり、また大変有望な場所でもある。そういった思いから宅地にしていこうと、昨年に開発予定地の指定区域を一般住宅地区に変更をしている。開発予定地域は、加賀産業開発道路、今工事をしている能美防災連絡道路に隣接した場所です。そして、この場所は周囲に辰口丘陵公園、動物園、最近ではアドベンチャーガーデンというアスレチックを楽しめる施設もできた。ドッグランもあり、陶芸村も近い。そして、閑静な住宅街である松が岡や泉台とも隣接をしている、そんな場所です。

- ・松が岡の皆さんにとってはそんなに周囲の景観が変わるような状況ではないと思います。徳山エリアや和気エリアの皆さんにとっては少し丘陵地だったところの状況が変わるかなという、そんな開発を今考えているところです。これまで対象となる下徳山、それから和気の役員の皆さんにこんな開発をしていきます、ということはお説明をさせていただいた。また、対象となるエリアの土地所有者の皆さんにも説明をさせていただいています。

- ・測量も始め、環境調査も行いました。このエリアに希少動植物があるんじゃないかということをお我々も把握をしており、本来であれば、環境アセスメント法では75ヘクタール以上の開発であれば調査をする必要がある。今回は75ヘクタールには満たないが、もしかして希少動植物がいるかもしれない、しっかりと守っていかなくてはならない、という思いから環境調査を行わせていただいている。そして、土地の売買契約等も進めており、埋蔵文化財の調査等も始めています。

・今後ですが、どれぐらいのエリアを開発をしていくのか。それから、具体的に道路をどうやって通していくのか、あるいは、何区画ぐらい整備をしていくのか、ということがある程度設定ができた時点で、新たに地元の皆さんへ説明会を開催させていただき、ご理解、ご協力を受けながら順次工事に入っていくという予定をしている。現段階では皆さん方にご説明できる範囲というのはここまでですが、何かご意見やご質問等々があれば何なりと受けさせていただきたいので、私の話は一旦ここで閉じさせていただきます。

4. 意見交換

【参加者】 白山手取川ジオパークが認定された。これに対して市長はどのように受けとめておられるか。能美市もジオパークの一部であるが、市のホームページではほとんど触れられてない。能美市のニュータウン建設は、自然保全と全く逆のことをしている。ジオパークの再認定のマイナスポイントとなる。この土地を何もせず、能美市市立公園として、自然公園として保全することが最善だ。長期的に見れば、観光振興となる。

【市長】 今は亡き山田憲昭市長から、白山ジオパークの開発にかける思いをずっと聞いていた。微力ながらジオパークの認定を応援をしてきた。周辺自治体とどうやって共同をして、この取り組みをしていくかは、今からだと思う。白山市と連携をとりながら、さらに応援していきたいと思う。

【参加者】 能美丘陵地の開発は肯定的に捉えている。環境保全にも配慮し、開発を進めてほしい。気になるのは雨水対策。丘陵地域の開発については、調整池の設置も当然あるだろうが、それ以上に道路から田んぼへ水が落ちないように配慮してほしい。寺井泉台から、産業道路へ直接繋がる道を建設したいとお聞きしたが、それは新たに道路を通すのか、現状の道路を利用してか。新たな住宅地には、住宅の他に商業施設やコミュニティセンターの建設は考えておられるか。

【市長】 雨水対策はしっかりやっていく。今回昨年の大雨を受けて、宮竹用水と今後大雨が降る場合には、用水を止めていただくというような契約も交わした。今後効果が出てくると思っている。この開発に伴って新たな対策もする予定。道路や宅地をどう開発していくのか、商業施設や市の施設をつくるのかに関しては、まだまだ今から、具体的にどれぐらいの面積が確保できるか、環境に配慮しながらどうできるかはもう少しお待ちいただきたい。

【参加者】 環境調査をしたのは誰なのか、どういう調査をしたか。和光台や松が岡なども

う開発され宅地化がされたところが何%程度埋まっているか。

【市長】 環境調査というのは、専門の調査会社に依頼をして、希少な動植物がそこにあるのか、住んでいるのか調査を行った。

和光台、松が岡がどれくらい残っているかは数字はわからない。色々なところが少し残ってるとは思う。ここは適地だということ。周辺にいろんな施設があり、東西連絡道路を加賀産業開発道路に通していく観点からも、他の開発地域とは違った魅力や役割があるので、開発をしていきたい。

【参加者】 環境調査は、どのくらいの期間・内容で、どういった生物がいたのか。

【市長】 調査結果については、公表する予定はない。それは希少な動植物がそこにある、住んでいるということが表に出た場合、それを取りに来る目的の人たちで、ここが汚染されてしまうという危険性を秘めている。なので現在ここにどういった動植物がいるのか、いないのかを、現段階では公表するつもりはない。期間は約 1 年と把握している。

【参加者】 土地の環境について、その場所でなく下流の生き物や植物にも恩恵があると思っている。クマは森の番人と言われ環境の中でとても大事な役割をしている。環境をどうにか保全できたという気持ちがある。環境保全も私達市民の役割ではないかと思っている。その辺を市にも何か考えていただければ。

【市長】 今後も環境調査や土壌の調査を行って、そして専門の知識を持った皆さん方にもアドバイスをいただきながら、ご理解をいただきながら、進めていきたい。

【参加者】 環境調査の結果を知りたい。また先端大の膨大な土地を、県と交渉して入手していただいて、住宅用地として活用していただきたい。これは東部振興会からも、毎年先端大の土地どうなっているかと質問が来てると思いますので、お願いしたい。

【市長】 公表するかどうかは、やはりここに何かがあるとわかった時点で取りに来られる方もいるかもしれない。ということを懸念して、できれば公表をするのは避けたい。先端大の件は十分に把握をしており、県にも何度も話をしている。なぜ新たに開発するのかは、能美東西連絡道路や産業道路の利便性を生かして、便利にしていきたいという思い、市内にいろんな宅地造成をする場所はあると思うがやはり選んでもらえる宅地には理由があり、家を作りたいという思いがそこにあると思う。そういった場所を宅地にしたい。

【参加者】 公表しないということは、されてはまずいものがあったということか。公表

しないという前提には、そういう希少な動植物が今回の調査には全くなかったということ
でよろしいか。あった場合は開発をしても良いのか。日本野鳥の会あたりに、アドバイザー
を依頼する可能性はあるか。

【市長】 あったかなかったかは申し上げられない。動植物に影響がない範囲で、専門家の
知識・アドバイスを得ながら開発をしていく。

【参加者】 今、人口が日本全国でぐっと減ってきている。その状態で、せっかく作った
住宅地に人々がいらっしゃるのか。何か数値的なこういった宅地開発ならどんどん増えて
いる、というデータなどはあるのでしょうか。能美市に人が来るということはちょっと甘
い考えではないか。本当にせっかく作ったけども来なかったという可能性も、ちょっと心
配。

【市長】 それはおっしゃる通りかもしれません。けれども企業誘致が好調で能美市には
働く場所がある。能美市を選ぶ人が増えるのではないかという思いから、宅地を造成した
い。働く場所だけでなく、子育て環境の充実をさせていく。デジタルの技術を使って、子
育世代に1人でも多く子どもを産んでもらって、子育てを楽しんでもらえるようなサポー
トをしていく。能美市を選んでいただけるように、様々な政策を複合的に取り組んでいき
たい。

【参加者】 松が岡でも緑が丘でも、空き地がいっぱいあってなかなか売れずに値段を下
げている。子どもたちがすごく減ってる、今一番宮竹小が減ってる。新しいところは魅力
的かもしれないが、宮竹も産業道路に近く、金沢方面に近い魅力的な場所。宮竹なら開発
にお金がかからない。新しい宅地化は、すごくお金・税金がかかる、ちょっとでも安く効
果があることを。

【市長】 ご意見を参考にしながら、取り組んでいきたい。

【参加者】 先端大周辺の土地がどれだけ魅力的か、若い人たちにとって、本当に魅力の
ある場所。周りは外国の子どもたちがいっぱい、保育園・小学校のときから友達がグロ
ーバル化されている。私が引っ越してきた理由は、自然が豊かだったから。あそこをアピ
ールすると、全国からたくさん、まず若い家族が来る。周辺では、無農薬野菜を作ってい
ます。宮竹小学校・保育園だけでも無農薬野菜の給食が出れば全国から若い夫婦が集まっ
てくる。先端大周辺の開発を早く進めてほしい。

【市長】 先端大の周辺は県と一緒に一生懸命いろいろ取り組んでいるが、なかなか形に

なっていないことは私も大変残念に思っている。引き続きあそこの開発にも取り組んでいきたい。

【参加者】 先端大の土地について、今までなかなかうまく進まない理由を、どういうところが問題で進めることが難しいか、具体的にお話できる範囲で教えてほしい。

【市長】 企業誘致があり、そのあと誘致した企業に勤める人たちに住んでもらえるエリアにしていこうとしている。県と今やっているのは、まず企業誘致。

また、あの場所は、先端大だけではなく、自然災害が少ない。周りには高圧電力を大量に持ってこられる施設があり、馳知事もそこにデータセンターを誘致できないかと公約に掲げて取り組んでいる。能美市も一緒にやってきてはいるが、なかなか実現していない。手を緩めてるわけではなく、交渉はしているが進んでいけないというところが現状です。

【参加者】 企業誘致の前に、宅地化からというのは難しいのでしょうか。

【市長】 方針の転換も必要かとは考えている。

【参加者】 能美市は子育てにすごい適地だと思う。自然に恵まれて、子どもたちはとても伸びやかに育った。ただ、高校への通学はとても不便。金沢まで行くと、3ヶ月で7万円かかる。これから移住してくる若い夫婦にとって非常に負担になる、そういった補助も必要ではないか。

自然が好きな人は自分で能美市を選んでやってくる。便利な住宅地に住みたいと思ったら、野々市や、金沢に近い方に住む。企業誘致をして多くの家族を呼ぶのであれば、能美根上駅に近い根上地区の平らな場所では駄目なののでしょうか、まずそちらを進めてからではどうかと思います。

【市長】 高校生の通学の件、これは大変皆さんに不便をかけている。能美市でも様々な対策をし、補助する制度も作っている。今後高校生が増え、バス路線が増えるという話があれば能美市もしっかりと支援をしていきたいとは考えている。

根上地区は残念ながら福島グランパークのエリアでは、もう宅地として造成できるというところはほとんどない。いろいろ選んでいる中で、今回のところとなった。

【参加者】 開発について新聞に発表される前に、松が岡に一言こういうことが計画しますっていう話はなかったのでしょうか。松が岡の住民の生活にも影響が出ることだと思う。

【市長】 皆様のご理解とご協力なくしては、計画は進めません。これからというところがあり、周辺の皆さんに説明をしながら、ご理解をいただきながら進めていく予定。新聞には出しましたが、あくまでも計画があるということだけ、実際にどんな状態で開発していくかは、まだ今から設計をしている段階であったので、十分な説明ができないということから、今日に至った。

【参加者】 設計する段階から住民の代表も入っていくことは不可能なんでしょうか。早い段階からその住んでる人たちを入れた形にしてほしい。たとうまくいかなくても、話し合った結果しょうがないと思える。もう決まりましたっていうことでしたら、誰も納得しない。これからわかることの中に入れてほしい。

【市長】 地元のその対象となる町会の役員の皆さんには説明はしている。松が岡の会長さんには、計画しているのでまた詳しいことがわかりましたらご説明させていただきます、とご説明はしている。
決まりましたからこれでいきます、というつもりはありません。今日もこういった対応もをして、今持っている情報を全て提示してご説明しているということでご理解いただきたい。いろんな代表の皆さんと話をしていきたい。

【参加者】 市長がこの能美市のために一生懸命何とかしようとしてらっしゃるのは大変よくわかる。ただ、地球温暖化の時代に開発していったいいのか。
空き家が増えて、売れない、空き地のままだとか、そういうこともある。宅地造成の前に視点を变えて、電気を例えばソーラーとか風力にするか地熱にするか、水素にするとか、そういうもので能美市自体の自給率を高めるという考え方をしてみては。
企業誘致というよりも、例えば農業を一つの企業として農林業で自給率を上げる。そういう考え方もうどうでしょうか。

【市長】 能美市の農業を発展させるためにもいろんなことをやっている。担い手の確保や持続する農業を守っていくために、デジタル化でいろんなことを今やっています。
環境面で言えば、カーボンニュートラル宣言をして、CO₂の削減にも取り組んでいる。
決して開発することだけに着手しているわけではない。もの作り企業だけを持ってくるという意味だけでもない。並行して色々なこともやっている。

【参加者】 説明資料の青い部分の土地はいずれ開発する予定か。最初に斜線の部分を開発されると言っていたが、他の色が付いてる土地もいずれ開発されるのか。

【市長】 今のところその予定はない。他にも、対象となる土地もあるでしょうし時代の

流れもあると思う。現在のところは、斜線のところの開発を考えている。

【参加者】 町会長や役員への説明の際、他の人もそこに聞きに行ったりすることは可能か。そういう場で意見を聞いていただいて、私達の意見を汲み取っていただいて変更だったり工夫をしていくのも可能ということでしょうか。

【市長】 そうです。いろんな話し合いの場があると思うので、町会の皆さんと相談をしながら進めていきたい。

【参加者】 先ほど土地利用、制度の問題でその工業地帯を宅地にすることが難しいというのは、工業地帯だからということか。

【市長】 あの周辺は田んぼが多く、農地を住宅にするのが難しいということ。

【参加者】 一番最初に気になったのが、どうしてここなのか。里山地区から一般住宅地区に変更されたときに、こんな簡単に変更できるのかと思った。そもそもどうして里山地区として保全しようとしていたところだったのか。どうして最初から住宅地区じゃなく里山地区だったのでしょうか。

【市長】 どうしてここがもともと里山地域として指定されたのか、経緯までは私もわからない。里山地区を一般住宅地区に変更するということは、土地指定でこんな土地だと指定されている場合もあるので、変更するのが難しいエリアもある。里山だから簡単にできるというものではない。

【参加者】 今後も市役所側からの説明会の開催を待っていますし、こちら側からも積極的に説明会をお願いしたいと思っている。

【市長】 ぜひやりましょう。

【参加者】 先ほどの環境調査、それは現時点では公表しないのか、将来的にも公表しないということか。調査結果が結局どのように考慮されていくのかわかりにくい。環境保全、乱獲を避けるというところも理解はできるが、環境保全の市の方向が定まったところで、公表する可能性は。

【市長】 開発していくにあたっては、有識者専門家の意見を聞きながらやっていく。それから、希少生物がいるかないか、それはわからない。将来的に法律が変わっていくか

もしれない、ある自治体では公表したことで守られたという話も聞いている。そういったことも参考にしながら、柔軟に判断をしていきたい。

【参加者】 市長の政治信条は何であるか。

【市長】 政治信条は、現地現場主義、市民ファーストです。必ず施策をやるときに現地現場に行って自分の目と耳と足で現場を確認をして、そこにいらっしゃる人たちの声を直接聞く。そして市民の幸せが第一番で市民ファースト、これが政治信条。

【参加者】 去年の水害対策はどうなっているか。宅地開発にあたって、保水能力がどうかや、風がどうなるか。そういうことも考えて、考慮していただきたい。

【市長】 水害に対しては、鍋谷川・梯川も流域面積を広げる取り組みを行っている。また福島グランパーク周辺の西川は県が拡幅の工事を進めております。樋門をつくってバックウォーターをしないようにしています。宮竹用水の出水を止めることによって、宮竹用水を排水機能として使うということから、内水被害を少なくするようにしております。今回 6 月の補正予算で 1 千万円かけまして治水対策の調査を始めております。宅地開発の際には、水害の規模が大きくならないよう対策をとって行きたい。

5. 閉会